

長岡市公共交通基本計画（素案）について

1 計画策定の趣旨

- ・市町村合併により、広大な市域と多様な地域資源を持った長岡市は、市域に広がっている多様な資源や個性を連携させ、市全体の魅力を高めるまちづくりの推進が求められています。
- ・高齢者や学生など、自動車を運転しない市民にとって公共交通は、日常生活に欠かせない交通手段であり、広域幹線道路体系と合わせて市域の連携を図る公共交通体系の構築が必要です。
- ・高齢化社会の到来、地球環境問題などから、自家用車依存型社会から公共交通を利用した環境負荷の少ないまちづくりを推進する必要があります。
- ・道路運送法改正により、バス事業の撤退が加速し、バス交通を維持・活性化していくためには、バス事業者だけでなく、市民や行政も一定の役割を果たすことが不可欠な状況です。
- ・このような背景から、合併した新長岡市のまちづくりを支え、将来にわたり持続可能な公共交通を構築するための指針として「長岡市公共交通基本計画」を策定します。

2 計画の枠組み

- 長岡市総合計画をふまえ、公共交通に関する計画を定めたもの
- 長岡市全域を対象
- 概ね 10 年後の長岡市の姿を見据えながら、公共交通のあり方を示し、可能なものから段階的かつ着実に実施

3 これまでの検討経緯

市民代表、学識経験者、交通事業者、関係行政機関の代表からなる『長岡市公共交通基本計画策定委員会』を設置し、検討を進めてきました。

○第1回委員会（H19. 8. 7）

- ・公共交通基本計画の目標及び検討の視点について

○第2回委員会（H19. 10. 23）

- ・長岡市における公共交通の問題点、課題について

○第3回委員会（H19. 12. 21）

- ・公共交通基本計画の基本方針について

○第4回委員会（H20. 3. 27）

- ・バス運行に関する施策について

○第5回委員会（H20. 7. 29）

- ・基本計画（素案）について
- ・公共交通活性化方策について

3 今後のスケジュール

○パブリックコメント（H20. 9 予定）

- ・計画（素案）を公表し、市民から意見を募集

○第6回委員会（H20. 10 下旬を予定）

- ・長岡市公共交通基本計画（案）について

4 長岡市公共交通基本計画（素案）の概要

（1）目標

「合併した新長岡市のまちづくりを支える公共交通の構築」

- 新市の一体化を促進
- 中心市街地をはじめとした各地域の活性化を支援
- 高齢化社会への対応
- 地球温暖化をはじめとする環境問題への対応

（2）理念

事業者だけでなく、行政・市民等（地域・住民・学校・企業など）の三者が連携・協働して公共交通をまもり育てる。

【三者の役割】

交通事業者		<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者ニーズを踏まえ、公共性に配慮したサービスの提供 ・ 安全、安心な運行 ・ 採算性向上に対する不断の経営努力
行政		<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通基盤を大切にしたまちづくりを推進 ・ 公共交通を利用しやすい環境づくりを主導 ・ 必要な公共交通サービスを維持するための財政支援 ・ 地域が運営する公共交通に関する情報提供・助言・調整など
市民等	地域・住民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活交通を持続するために公共交通を積極的に利用 ・ 各地域に合った公共交通の計画づくりに主体的に参加 ・ 地域の公共交通を支える運営に参加・協力など
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境問題や高齢化社会への対応などの観点から公共交通利用の重要性に関する意識啓発
	企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通を利用しやすい環境づくりに協力 ・ 社員への公共交通利用の働きかけなど

(3) 基本方針

①ネットワーク

既存の鉄道や周辺地域を結ぶバスの基幹路線の骨格を基本とした公共交通網の形成

②サービス水準

利便性と効率性を踏まえた運行サービスの提供

③運行主体

地域特性に応じた公共交通の実現

④活性化

まちづくりと一体となった公共交通の利用促進

⑤持続可能な仕組み

市民協働でまもり育てる仕組みの導入

(4) バス交通の路線別の考え方

【基幹路線（長岡駅と周辺地域を結ぶ路線）】

長岡市全体の目指す姿

- ◆ どの地域からも、通勤、通学、通院、買い物の中心となっている長岡地域へ行き来できる環境の実現を目指します。
- ◆ 観光客等の来訪者が市内のどの地域へも行くことができる公共交通網を形成します。

〈基本的方向性〉

- ・国、県の支援制度の活用と合わせて、市が適切な支援を行い、従来型の路線バスを維持します。

【周辺地域内路線（周辺地域内を運行する路線）】

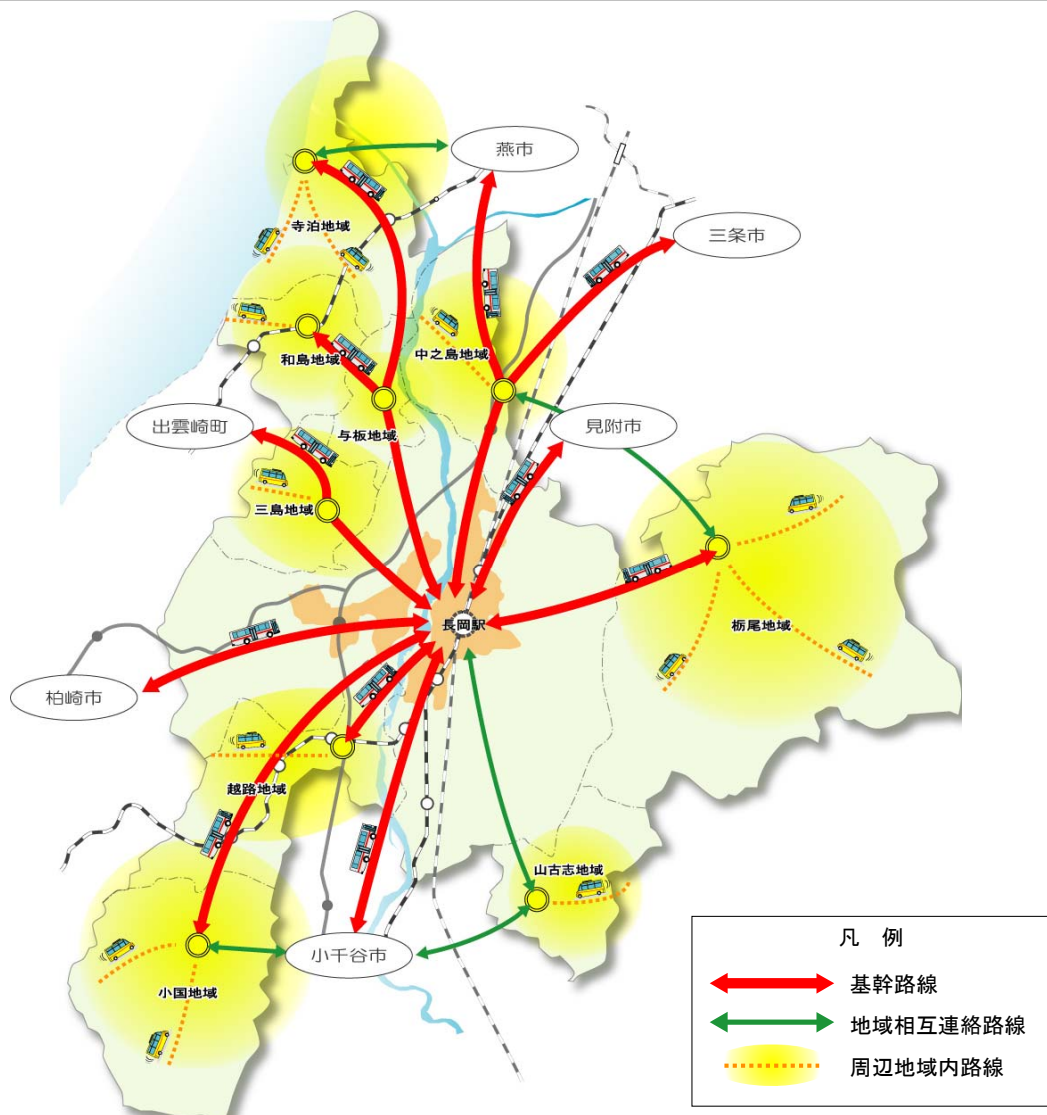
／地域相互連絡路線（周辺地域を相互に連絡する路線）】

周辺地域の目指す姿

- ◆ 高校生や高齢者など、自動車を運転しない市民の生活交通の確保を主眼におきながら、効率的な運行サービスを目指します。

〈基本的方向性〉

- ・平均乗車密度などの指標により、一定の利用がある路線については、利用実態に応じて便数の見直しなどの効率化を図りつつ、県の支援制度の活用と合わせて、市が必要な支援を行いながら路線バスを維持します。
- ・利用の少ない路線や空白地域では、住民が主体となった運営を検討します。なお、住民主体の運営にあたっては、市が適切な支援を行います。



【市街地路線（長岡地域の中心部を運行する循環線等）

／長岡地域郊外路線（長岡駅と長岡地域の郊外を結ぶ路線）】

長岡地域(バスの交通軸)の目指す姿

- ◆ 高いニーズに対応し、また、自家用車からの転換を促すため、通勤、通学、通院、買い物など多様な目的で快適に利用できるバス交通を目指します。

〈基本的方向性〉

- ◆ 自家用車から公共交通への転換を促進するため、市が適切な支援を行ないながら利便性向上に努めます。
- ◆ 平均乗車密度などの指標により、一定の利用がある路線については、利用実態に応じて便数の見直しなどの効率化を図りつつ、県の支援制度の活用と合わせて、市が必要な支援を行いながら路線バスを維持します。
- ◆ 利用の少ない路線や空白地域では、住民が主体となった運営を検討します。なお、住民主体の運営にあたっては、市が適切な支援を行います。

【長岡地域拡大図】



バスの交通軸 (←→)

自家用車からの公共交通への転換を促進するための中心的役割を担う路線をバスの交通軸と位置づけ、高いサービスの運行を目指します。

(5) 主な施策

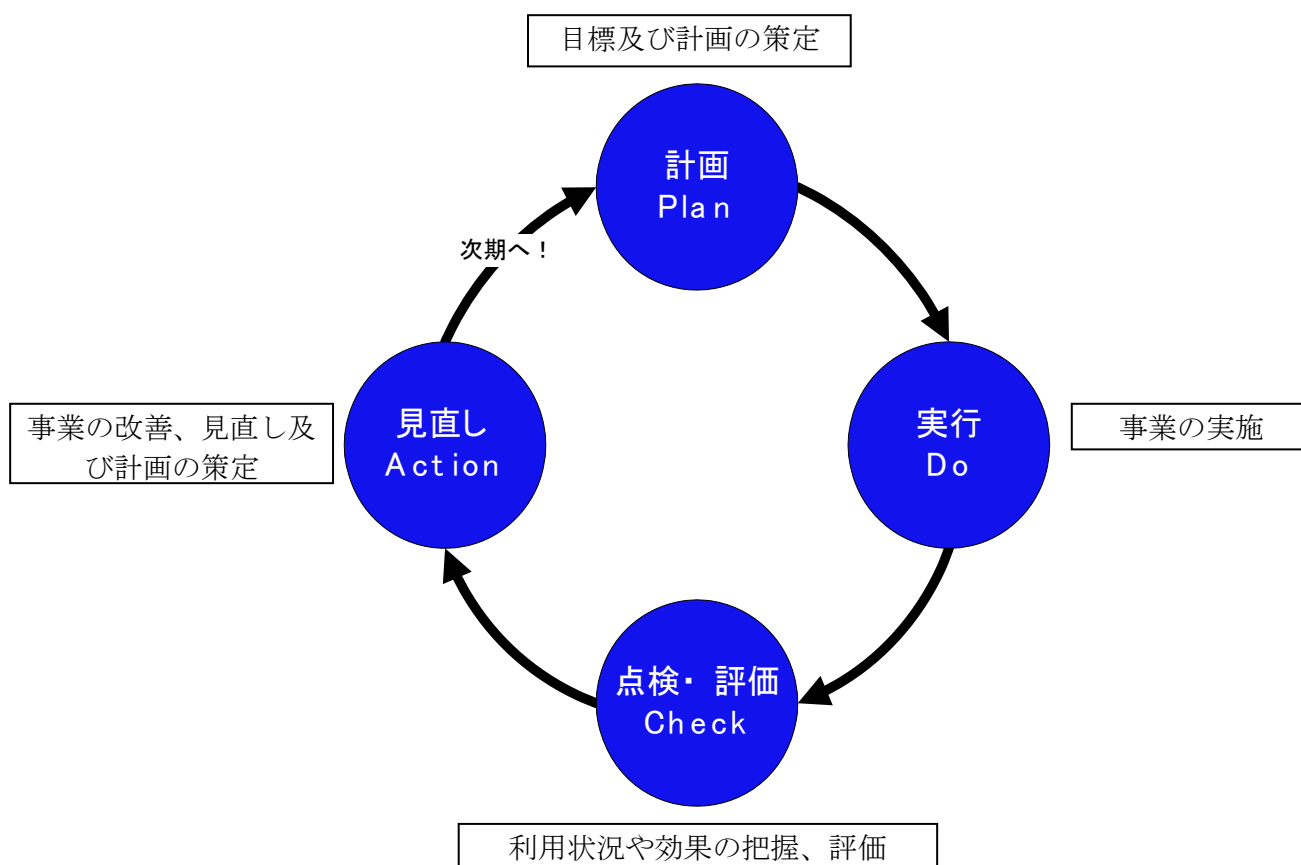
		内 容
バス運行	基幹路線	<ul style="list-style-type: none"> ・和島地域へ概ね1時間に1本の運行を目指しバスの増便（社会実験） ・寺泊地域への20時台のバス運行（社会実験）
	市街地路線	<ul style="list-style-type: none"> ・南循環線を中央病院へ乗り入れ、運行時間帯の拡大 ・中央循環線の運行時間帯の拡大
	シャトルバスの運行	<ul style="list-style-type: none"> ・シビックコア地区と千秋が原地区を結ぶシャトルバス運行（社会実験） ・併せて、パークアンドライドを推進
公共交通活性化方策	バス停上屋の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・公共公益施設、大規模商業施設等の集客施設周辺の利用者の多いバス停や、乗り継ぎ拠点などのバス停について、市が関係者と協議しながらバス停上屋を整備
	バスロケーションシステムの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや携帯電話を活用したバスの位置情報配信システムの導入路線の拡充 ・公共公益施設や大規模商業施設内にバス位置表示モニターの設置を検討（施設管理者と協議）
	均一料金区間の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・日赤病院線に均一料金制の導入（社会実験）
	パークアンドライドの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅でのパークアンドレールライド（駅周辺での駐車場、駐輪場の検討） ・バスの基幹路線におけるパークアンドバスライド ・市街地周辺でのパークアンドバスライド
	意識啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティマネジメントの推進（※）

※ これまで行政機関などが中心となって交通需要をコントロールする政策を一步踏み出し、一人ひとりのモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通政策です。

(6) まもり育てる仕組みについて

<見直しの手順>

持続可能な公共交通を実現するためには、事業者、行政、住民の三者が一体となって取組む必要があります。そこで、施策の実施にあたっては、以下に示すP D C Aサイクルの導入を検討します。



概ね3年程度を目安に、その期間毎にサービス水準や利用促進策の見直しを図ります。1年程度で点検・評価を繰り返し、改善を加えながら、3年程度で事業の抜本的な見直しを図ります。

また、点検・評価においては、市民等の実績を公表し、住民の協力を得ながら実施します。

(7) 計画の目標値

バス利用者は、平成10年から平成17年にかけて、バス利用者は20%以上減少しています。

長岡市総合計画（平成19年3月策定）では、バス利用者の減少傾向に歯止めをかけ、平成22年に平成17年のバス利用者数を維持することを目標としています。

将来の人口減少と少子化により、利用者数の維持は大変厳しい状況が予想されますが、本計画を着実に進め、現状の利用者数を維持し、自家用車利用からの転換などによって公共交通を利用する割合（分担率）を高めることを目指します。

また、公共交通活性化方策によってバス利用環境の向上を図り、公共交通機関に満足している市民の割合を増やすことを目標とします。

